

石川県全域で経済を回す事はもちろん重要だが、その事が能登の復旧、復興に連動しているという実感を、石川県に住んでいる自分ですら持ち得ず何となくもやもやしている。

5月に北陸新幹線が福井県の敦賀市まで延び、金沢市を境に県南ばかり潤っているようにも思えます。

「能登半島地震から5ヵ月余りを経て」能登半島はこのまま「能登で起きた地震」となってしまうのだろうか。

新たな復興の歴史をつくる為にも被災の記憶は広く共用され、そして継承してこそ意味を持つ。

地震による被害復旧が思うように進まない状況の中、1日も早い復旧復興を願うところです。

久仁京介だより（第39号）令和6年4月号に三谷副会長の原稿に自身が住んでいる新潟市西区での地震状況が詳しく書かれていましたが関連記事が私の地元の新聞に掲載されていました。

「液状化深刻・新潟市」「能登半島地震」から直線距離で約170キロ離れた新潟市西区を取材班が歩くと斜面中腹の家が傾き、ふもとの郵便局は数十センチ浮き上がっている「地盤の液状化」の爪痕が生々しく残っていた。

現地を歩けば住宅街が広がる新潟市西区の理髪店は、駐車場が86センチ陥没。「側方流動」で店は後へ1メートル弱動いた。被害が有った近くのホテルは、建物の工事を急ぐのは予約のお客のキャンセルを最小限にとどめるためと言う。

お客さんに「能登半島地震」の影響で工事中ですと伝えると『え？なんで新潟が？』と言われます。確かに「あんな遠い所の地震がね・・・」

今回、「地盤液状化」被害は新潟から富山、石川、福井の4県にまたがって生じた。

石川県と新潟県は遠いと言うが、同じ地震で被災した、同じ日本海側同志だ。課題と知見を共有し、難局を打開する流れを作って欲しいものです。